

ささやま図書館友の会



会報 第44号 2020年4月発行

発行：ささやま図書館友の会

配本所見聞記

薦野多恵子

市内6か所（城東公民館、多紀支所、ハートピアセンター、西紀支所、西紀分室、今田支所）に設置されている配本所はどのように利用されているのだろうか。昨年12月初め、私たちはまず配本所の実情を見てみましょうということ、3か所を回ってみることにした。

配本所でできることは、

A・・・そこに設置してある本の貸出ができる。

B・・・図書館にある本を取り寄せて借りて返却もできる。

C・・・利用者登録（貸出カードの発行）や、予約・リクエストの申込みができる。

本を取り寄せるには配本所の担当者（「図書等貸出・予約申請書」（以下、申請書）に記入して提出。担当者が「申請書」を図書館にFAXすることにより、本が配本所に届けられる。これで、読みたい本があれば、図書館まで出向かなくても最寄りの配本所に本を届けてもらえる仕組みになっている。

【今田支所】まず、職員の方に配本所の機能が十分に理解されておらず、「申請書」の確認もできなかった。



（決して職員の方を責めているわけではありません）。支所の入口を入って窓際に小さい段ボール箱がおいてあり、図書館からの本はこの中にあるという。話によると、支所の方から図書館に「申請書」のFAXをした事はないとのこと。図書館から届いた本を利用者に渡しているだけだという。（週1〜2回は図書館職員が巡回しているとのこと。これは届ける本がある場合に回っているようだ）。

図書館便り「本の森」はロビーに並べて置いてあった。ただ、図書館の本の貸出ができますよという案内のチラシはテーブルのへりに貼ってあるのであまり目立たず見にくい。

【西紀支所】ここでは、ロビーの窓際にブックトラックが1台設置してある。冊子が並べてはあるが、図書館の本ではない。図書館の本を借りる「申請書」はどこにあるのか聞いてみると、（その手続きを）したことがないので図書館に聞いてみるということで、ようやく「申請書」を確認した。



この後、2月になって見ると少し改善されていて「申請書」がファイルに入れてブックトラックの上においてあった。また、パソコンなどから予約ができ、配本所でも受取・返却ができるという案内板も置いてあり、分かりやすくなっていた。

トラック上段には図書館からの本が50冊並べあり、その下の段には地域の人の持ち寄りで自由に借りられる本が並べあった。トラックの上部の壁は掲示板になっていて配本所の利用案内が掲示してあった。しかし、ここでも「申請書」を書いて借りる方はほとんどなく、また、申請するにも西紀支所の職員が来ている火曜・木曜の午前中でないと手続きはできないということであった。

3か所の配本所を回ってみて痛感したのは、図書館と支所の職員との連携が取れていないということ。図書館として、せめて年度初めに配本所を回って支所の職員に周知するくらいのことはしておられないのだろうか。そして、なにより市民へのPRが何らなされていないのではないのかと思わざるを得ない。もう少し積極的にいろんな機会をとらえて、配本所の存在と利用の仕方をPRしていただくようお願いしたい。

配本所の利用状況

(図書館年報平成30年度版より)

	(貸出冊数)	(返却冊数)
城東	8冊	8冊
多紀	0冊	27冊
ハートピア	34冊	61冊
西紀	2冊	0冊
西紀分室	0冊	0冊
今田	235冊	464冊
合計	279冊	560冊

*ハートピアと西紀分室には中央図書館から50冊配置、年4回入れ替えされている。

*配本所は図書館から離れた地域の利用者に対しての図書館サービス(予約圖書の貸出や返却)を行っています。ぜひ、ご利用ください。

講演会

光秀の丹波攻めと波多野氏

～明智光秀と波多野秀治～

昨年10月に、田中豊茂さんが「光秀の丹波攻めと波多野氏」というタイトルで講演された。今年のNHK大河ドラマが「麒麟が来る」に決定して、俄然脚光を浴びた明智光秀と波多野秀治の生涯についての講演だった。

光秀は一般的な理解では、美濃源氏土岐氏の一族明智氏の出自となっている。しかし、その前半生をうかがい知ることができる確かな史料はない。

乱世に時代を画した織田信長と出会い、その引き立てを受け、身につけた文武両道の才を存分に発揮した。永禄11年の歴史への登場、そして天正10年の落命まで、わずか15年間で光秀の確かな歴史である。その足跡をたどると、文字通り夜空に光芒を放って消え去る流星のごとき人生であった。

天正元年、足利義昭が織田信長に対して挙兵するが、義昭は京を追われる。義昭を追放した織田信長から丹波武士の多くが離反する。天正3年信長の命を受けた明智光秀は丹波

に出陣し、黒井城を攻めるが、波多野秀治の裏切りによって丹波から敗走する。以後、明智光秀と丹波武士の戦いが繰り広げられる。天正7年、八上城に籠城した波多野秀治が降伏し、秀治らは安土で刑死する。

天正8年、信長から「丹波国での光秀の働きは天下の面目を施した」と激賞され、近江の坂本に加えて丹波一國を与えられ34万石の大大名に出世する。天正10年6月2日、本能寺に宿泊中の織田信長を攻めて殺害する。6月13日、山崎の戦いに敗れた光秀は落ち武者狩りによって討死にする。享年55歳だった。

光秀が何故本能寺で織田信長を攻めたのかは歴史上最大の謎とされている。現代に伝わる過去の歴史上の事件は、残された文献によってしか知ることができず、それもまた決して真実とは言いきれない。その時代の勝者によって編纂された史料は勝者の視点から編まれたものだからである。

以上、田中豊茂さんのお話を要約したものである。八上城の麓に暮らしながら何も知らないで過してきたが、その歴史の一端に触れたような思いがした。(池田映子)

参加者数41名。友の会以外や遠方からの参加もあり、関心の高さを知った。

田中豊茂さんプロフィール

昭和28年(1953年)兵庫県生まれ、丹波篠山市在住。日本家紋研究会理事・日本家系図学会会員・山名氏城跡保存会会員・北播磨城郭研究会会員。エロ家紋Worldにて家紋と名字のおもしろさを発信中。

参加者の感想

・面白く聴かせていただいた。確たる事実が何なのか、明確でないのが残念ではあるが、将来の研究を待ちたい。様々な事実を知ることができた。

・非常に興味深く聴けた。中世、古代の篠山についての講義があればぜひ聴きたい。

・地元住民として子どもの頃から聞き知っている情報の再認識と、今日新たに得られた情報と合わせ、NHKの大河ドラマのストーリーを楽しみながら、歴史の真実に思いを馳せられればと思います。



令和元年度図書館協議会報告

図書館協議会は8月21日と11月29日に開催されました。話し合いは多岐にわたっていますが、2点に絞って報告します。

1. 市民センター図書コーナーの運営について

図書コーナーは、篠山再生計画の行財政改革に基づき、平成21年度よりブックサポーター（ボランティアスタッフ）による運営が続いています。当初は百名近くいた登録者は現在40名以下になっています。

職員の滞在時間は12時～15時（火・金）・13時～15時（土・日）。ブックサポーターは10時～14時と14時～18時を2名ずつ交代で運営を担っています。

年々登録者も減り、担当番を調整するのも一苦労と聞いています。協議会でも以前から職員の滞在時間の延長を望む意見が上がっていました。再生計画の10年が過ぎ、図書コーナーの運営を考え直す時期がきているのではないかとブックサポーター代表の委員から意見がでました。館長からは、来年度から国の働き方改革を受けて、司書の勤務時間が30時間から35時間になるのを踏まえて、図書コーナーも職員の滞在時間を1時間延長できる旨が話されました。

た。委員からは、市民が利用しやすい図書コーナーであるように今後の運営を見定めて、図書コーナーの運営を考えてほしいと意見が出ました。また、ブックサポーター制度が発足した時に、「市長は10年間だけこの制度で運営する、その後は、職員を配置した状態に戻すと言われた」との発言もありました。図書コーナーの運営は早急に改善しなければならぬ問題と考えます。

2. 出張図書館で配本所PRの実施

11月3日に配本所の一つであるハートピアセンターで出張図書館を実施。当日は多紀地区文化の祭典の会場となっており、図書館や配本所のPRやチラシの配布、絵本の読み聞かせや紙芝居などのおはなし会も行われました。事前に有線放送で周知していたので、就学前の子どもがいる親子連れが3組ほど来たのとことです。また、来場者から「図書館がきている。丹南の遠いところから「苦労様」と声をかけられ、図書館は遠いと思われることを実感したと職員が話されました。配本所の改善や認知度を上げることでまだ伸びしろがあると思うので、今後も積極的に取り組んで欲しいです。

（報告 中西文枝）

ご参加ください！

おとなの本を読む会

4月16日(木)10～12時
丹波篠山市立中央図書館 創作活動室
【取り上げる作品】
伊集院 静の著作を取り上げます。
各自読んできて自由に意見交換をします。作品は各自で選んでください。

宮沢賢治の作品を読む会

5月12日(火)10時～12時(隔月開催)
会場:市民プラザ・ミーティングスペース
【取り上げる作品】
:『マグノリアの木』『龍と詩人』
参加費:300円(会場費)
*声に出して読んで作品を楽しみます
*テキスト(100円)は用意しますが、各自お手持ちの本、または図書館の本でも良いです。

2020 年度ささやま図書館友の会 総会のお知らせ

日 時:令和2年4月18日(土) 受 付 13時～
場 所:丹波篠山市立中央図書館 視聴覚ホール

総会議事 13時30分～

- ・議案:2019年度活動報告、決算報告
- ・2020年度活動計画・予算(案)

会終了後

講演会 絵本『いいおてんき』ができるまで

講師 中野由貴さん

丹波篠山市油井の酒井さんの畑の取材から

絵本ができるまでをお話していただきます。

◆総会案内は後日発送いたします。

◆年会費1000円は総会会場にても受け付けます



■友の会行事には会員以外も参加
できます。
お気軽に会場へお越しください。

こどもの 本棚



『モーモーまぎばのなまやぐれぬ』

マリイ・ホール・エッツ作

やまのうち きよこ訳(偕成社)

はるのまきばで、うしがくさをたべています。

「モー。ムオオオー。なんておいしいくさんでしよう。きれいなさんぽうけもさいてるし・・・。」

牛はだれかにごちそうしたくなりました。かけすがみんなにふれてまわります。うま、やぎ、ぶた、いぬ、ねこ・・・

たくさんのお客さまがやってきたので牧場はにぎやかになりました。

が、草のきらいな仲間もいたのです。



サーモンピンクのバックに線画が目にあざしく春らしいのどかな気持ちに包まれます。親子でうそで。

E工(福山)

『アフドルのぼうけん』

アフガニスタンの少年のものがたり

金田卓也作(偕成社)

あるあさ、アフドルと弟のアーマツドのふたりの少年は、ひろい砂漠の向こうには何があるか知りたくて冒険に出発します。途中、旅する遊牧民に出会ったり、ざくろ売りのおじさんの荷車に乗せてもらったりしながら、砂漠の向こうの町に着きます。お金もなく途方にくれていると、見知らぬおじさんが家に泊めてくれました。

作者の金田さんが19歳でこの地を訪れ、アフガニスタンの諺「はじめて会えば友だち、次の日からはもう兄弟」を現実に体験したことを絵本にしています。荒涼とした風景とは裏腹に、人々の心は豊かな精神にあふれています。アフガニスタンに一日も早く平和が訪れることを願って絵本づくりをしたこのことです。

E力(福山)

『もし、地球に植物がなかったら?』

きねふち なつみ作

真鍋 真・ジョン・ブルタン監修

(あすなろ書房)

地球が生まれたのは、46億年ぐらいい前。はじめての「いのち」が海の中でうまれたのは、40億年ぐらいい前。そして・・・

美しい木版画で、植物の進化の歴史を通して、地球の歴史が描かれている絵本です。

私がとても気に入っているのは、地球にはじめて花があらわれた場面です。優しく癒される色調であり、花がたくましく咲いているように描かれています。

植物のはたらきからできたオゾン層というおおいに守られて、地球の生きものは進化してきました。地球の生きものにとって、植物はなくてはならないものです。

これからの地球環境について考えさせられる科学絵本でもあります。

この絵本の監修をされている真鍋真さん(国立科学博物館)が訳されている絵本『わたしはみんなのおばあちゃん』『ジョン・サントウ・ウィット文 カレン・ルイス絵(岩崎書店)』も小さな子供さんでも楽しくわかりやすい、進化のおはなしになっていておすすめです。

(木戸)

『絵本・名人伝』

中島敦 原作／小林豊 文と絵

(あすなろ書房)

いつだったか図書館に来て、子供新着本の棚の前をさっと通り過ぎた時、何かがチラと目の隅に入り、「えっ」と戻って見直すと、題は『絵本名人伝』、表紙の絵は岩山のとっぺんで矢を射る男。正しく中島敦『名人伝』の絵本版。慌ててぱらぱらと読んでみて、「子供が分かるのだからか」と思った、そんなことがある。原作はとても短い。わずか4、5ページの短編である。

舞台は昔の中国。一人の男が弓の道の修行を極めようと、当代一といわれる師匠の門をたたく。最初に課された修行は、全く瞬きをしないようになる事。男はこの難行を何年もかけてやり遂げ、眼の前に何が来ようとも、また昼も夜も眼を見開いたままでおれるようになった。次なる修行は、極小の物が極大に見えるようになる事。これも遂に、蚤が馬の大きさに見えるところまで到達する。ここまで来てしまった男に、師匠はある恐れを抱く。そして、高い山に住むという名手の仙人の話をする。男は早速その岩山へ行き、仙人に出会う。仙人は男の眼の前で、弓矢を

持たずして鳥を射落としてみせる。

「不射の射」だと言っ。

男は何年も帰って来なかった。そして帰ってきた時には、すごい名人になっているのだという噂が都中に飛び交う。だが男は、全く弓矢を持つことが無くなっていた。それどころか、弓というもののさえ、射るということさえ・・・

漢文調の文体が格調高い。そして、より速く、より強く、頑張れ、一番に、我こそはという中に、傲慢という醜悪さが・・・。そんな事を考えさせられる一篇である。

そして、改めて絵本の方を読んでみると、見事に原作の核心が突かれていた。子供向けとはいえど、こんなに芯のある本があつたのかと感動した。小林豊の作品をもっと読んでみたいと思った。 E」

(岩瀬秀子)

おとなの本棚



『宝島』

真藤順丈著 (講談社)

第一六〇回直木賞受賞で二〇一九年度、私のベスト1です。

教科書には載らない沖縄の深い戦後史満載のこの小説は、どこか他人事だった沖縄の抱えている問題も含めて、初めて私に沖縄をぐっと近づけてくれました。分厚い本ですが、そこに生きている人々の熱量に圧倒されながら一気に読めるスピード感あふれる熱い熱い本です。Fシン(★)

『ライオンのおやつ』

小川糸著(ポプラ社)

33才の女性、海野雫は癌で余命を宣告され、瀬戸内の島にあるホスピス「ライオンの家」で最後の日々を過ごす。そこには、毎週日曜日、入居者がもう一度食べたい思い出のおやつをリクエストできる「おやつ時間」があった…。

「読んだ人が、少しでも死ぬのが怖くなくなるような物語を書きたい、と思い執筆しました。おなかにも心にもとびきり優しい、お粥みたいな物語になっていたら嬉しい」

作者のこのコメント通り、まさにそんな本でした。死にむかう雫の体

と心の変化の、繊細で丁寧な描写が胸をうちました。「ライオンの家」代表のマドンナさんの「おやつは、心の栄養、人生への「褒美」という言葉に納得。

心にしみる言葉の数々に出会える本です。 Fオガ(星宗)

『昭和史』『B面昭和史』

『世界史から見た昭和史』

半藤一利(平凡社)

令和と元号が変わり、すっかり昭和は過去になってしまいましたが、この激動の昭和の時代が、今の我々の時代を良きにしろ、悪きにしろ平成という時代を経て築いてきています。その昭和の戦乱の時代を読み解く三部作です。

『昭和史』は昭和天皇の即位から日本の生命線として、赤い夕陽の満州を何とか手にしたいと、侵攻したことから始まり、第二次世界大戦へと突き進んでしまった外交と軍部との葛藤。そして戦争。

そしてその国民の日々の生活を新聞の社会面から読み解くような書き方で、小市民が戦争に巻き込まれてゆく様を記した『B面昭和史』。しみじ

みと当時の市民の悲しさを感じます。

そして『世界史から見た昭和史』は当時の日本の外交の視野の狭さ、独りよがりな解釈、それに比べ欧米諸国のしたたかさ、するさ、日本には外交というものは無かったと語っています。

現在の平和な日本？はこの激動の昭和の上に立っているのだと、チョッと重苦しいシリーズ物を。

3冊とも210.7ハ (ヨシダ)

『パリのおばあさんの物語』

スーシー・モルグンステル又著

岸恵子訳(千倉書房)

大人が読む小さな絵本です。

夫に先立たれ、子どもはもう独立してアパルトマンに独り暮らしのおばあさん。買い物も一苦労、好きだった本も目が疲れるからもうだめ。得意だった編み物も。日がな一日忘れ物さがして暮らします。ナチスがはばをきかせていた辛い戦争中の悲惨な日々を思い出すことも。

老いへの道を静かに爽やかに歩んでいきましょう。 726モ (福山)

活 動 記 録

ブックトーク～今年度は図書館と共催で8小学校(14校中)に出向きました。友の会は岡野、古市小学校の2校を担当。また、司書の方に同行して西紀小学校5年生のブックトークを見学しました。テーマは【変わる】です。「平成から令和に年号が変わりました」という導入から「とぶ船」「モンテクリスト伯 上・下」など計7冊の本が紹介されました。難しい本も簡単な紹介で読む気を引き起こすようで、手にとって見ていました。

掲 示 板

図書館は蔵書点検のため休館します

休館日 5月11日～21日(木)

*5月3日～6日の祝日は開館。但し、市民センター図書コーナーは休館。5月は休館日がとびとびに続くのでご注意ください。

図書館拾い読み

としょかん 152号(としょかん文庫・友の会発行)

「直営に戻った 守谷中央図書館」

館内見学と指定管理制度導入から直営に戻すまでの経緯について、守谷中央図書館(茨城県)の図書館長・副館長から状況説明を受けたことや「守谷の図書館を考える会」との懇談会の記事が掲載されています。

市長の(直営に戻す)決断の大きな理由としては、一中央図書館が指定管理になってから、中央図書館と学校図書館との連携に支障を来した。『子育て王国守谷』を推進する中で、子どもの教育環境の充実を一義的に考えなくてはならないという意味からしても、図書館を直営に戻すべきである。指定管理者導入の直後から館長以下、何人も職員がやめるなどの混乱が続く、図書館協議会を第三者委員会と位置付けて、運営についての評価と運営体制について諮問され、その後、市長決定となった。

「本の修理」…守谷図書館のボラ活動を参考に

守谷中央図書館で長年活動しているボランティア「本の修理の玉手箱」が詳しい「本の修理マニュアル」をHPで発信しています。友の会でも本の修理の参考にさせていただいてきました。

★ささやま図書館友の会の「本の修理」は第2・第4金曜日午前10時～12時30分、市立中央図書館創作活動室で行っています。



図書コーナーの3月の壁面飾り

ボランティア有志が折り紙で季節ごとに壁面を飾ります。図書コーナーへ来られた方は是非ご覧ください。「毎月10日は図書館の日」に折り紙教室を開いています。



談話室

◆西紀分室へは市街地から田畑の間をうねうねと続く細い道を車で走り、やがて人家が途切れると山の中に入る。カーブが続く山道に冬場の大変さを感じる。峠を越えた先には小学校・幼稚園があり地域のコミュニティの場がある。遠隔地こそ、本を届ける行政サービスの充実を思った。

◆図書館協議会で、配本所のPRを兼ねて多紀地区で出張図書館を実施した報告があった。事前に案内を聞いて本を借りに来た親子もいて図書館としても手ごたえを感じたようだ。配本所を認知してもらうためにも有効な活動だと思う。ぜひこの活動を広げてほしいと思った。

◆昨年12月に中村哲さんの計報が届いた。16年前に宮沢賢治学会地方セミナー「中村哲・井上ひさし講演と対談」が滋賀県能登川町で開催され、篠山からも宮沢賢治の会数人で参加した。初めて中村哲さんの活動を知り感銘を受けた。送られてくる「ペシヤワール会報」には、常に先頭に立ち重機を動かす中村さんの姿があった。「緑の大地計画」は幾多の困難の中で少しずつ成果が実り始めたところだったので本当に残念に思う。

(福)

■3月28日開催を予定していた

能楽入門講座「能への誘い」は、中止となりました。毎年開催を楽しみにされている方も多いと思いますがご了承ください。